

戦略的大学連携支援事業

「科学 Try アングル岡山」 行事等 報告書

行事名	「科学 Try アングル岡山」主催 連携教育研究推進シンポジウム および、第1回戦略 GP-KTO 連携教育研究推進ワークショップ		
担当部門・機関	先進科学教育部門・岡山理科大学		
開催日時・期間	平成 21 年 7 月 4 日(土) 13:30~17:30	会場	岡山大学 自然科学研究科棟 2 階大講義室

《概要》

文部科学省「戦略的大学間連携プログラム」による「科学トライアングル岡山」における先進科学部門が企画して「連携教育研究推進シンポジウム」と「連携教育推進ワークショップ」を開催した。

《参加者》

約 100 名

《報告事項》

《〈当日のスケジュール〉》

13:30~15:30 科学トライアングル岡山 連携教育研究推進シンポジウム
16:00~17:30 第1回戦略GP-KTO連携教育研究推進ワークショップ

《〈連携教育研究推進シンポジウム〉》

豊田真司・岡山理科大学副学長の司会により、最初に千葉喬三・岡山大学学長から、本プログラムの概要説明と、基調講演を通して大学間連携とFDを推進している文部科学省の基本的な考え方を把握し、本プログラムをさらに推進して行くためにシンポジウムで議論を深めるよう期待を込めた開会挨拶をいただいた。

次に、小野元之・日本学術振興会理事長から「地方における大学間連携教育研究推進とFD」をテーマに基調講演をいただいた。60年ぶりに新しい教育基本法が制定され、21世紀にふさわしい新教育基本法として今後5年間を見通した教育振興基本計画が策定されたが、財政の裏付けがないことから、日本の生きる道は「人材育成」であり、わが国の将来にとって大学・大学院政策は非常に重要であること、したがって、学士課程教育の構築、大学の多様化と機能別分化、その具体的な重点政策として大学改革戦略；世界的な教育研究拠点の形成、大学の国際化の推進、地域振興の核となる大学システムの構築、イノベーションの源泉となる学術研究の推進が必要であることが強調された。その中でも特に、地域振興の核となる大学システムの構築に関して、国公私を通じ複数の大学が大学院研究科等を共同設置出来る仕組みを創設するために「戦略的大学連携支援事業」が実施され、大学における教育課程の共同実施、そのためには大学・大学院教育の質の保証、FD(ファカルティ・ディベロップメント)が必要であることなどの説明があった。世界各国は大学への支援を充実させて来ているのに、日本の現状を見ると危険であり、「大学の再生」を日本再生のキーワードとし、大学への競争的資金の大幅拡充を含めた大学への公的資金の投資が重要であることが強調された。最後に大学側からの努力も必要であり、大学が実行しなければならないことが示された。



千葉・岡山大学学長・開会挨拶



小野元之・日本学術振興会理事長・基調講演

続いて、原田 勲・科学Tryアングル岡山・連携教育推進センター長から連携拠点「科学Tryアングル岡山」の活動の中間報告があり、本プログラムが行ってきた各種の活動がまとめて報告された。

さらに、波田善夫・「大学コンソーシアム岡山」会長・岡山理科大学学長、および木村 宏・「大学コンソーシアム岡山」運営委員長から、「大学コンソーシアム岡山」の現状報告があり、「大学コンソーシアム岡山」の設立目標から、その組織、これまでに行ってきた事業、予算などの説明の後、これからの課題として事務局体制の強化として設置場所、規模、予算などの問題、予算規模の拡充として民間企業の参加、学生参画事業の拡充、自治体との協力関係強化、県内大学への進学率アップへ向けた事業、県内大学連携体制の促進・強化などが指摘された。最後に、平成 21 年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」への応募により、「岡山オルガノン」の構築をめざし、一学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育の実施、連携による教育の共有化、共同FD活動、共同SD活動、実践的キャリア教育体制の強化、地域連携による人材育成を行う計画が説明された。



原田・KTOセンター長・取り組み説明



波田・岡山理科大学長と木村・大学コンソーシアム岡山運営委員長・講演

予定された3つの講演の後、討論と総括があり、シンポジウムは 15:30 終了した。



シンポジウム参加者



総括討論・小野理事長と豊田・理科大副学長

〈〈戦略GP-KTO連携教育研究推進ワークショップ〉〉

「連携教育研究推進シンポジウム」に引き続き、「科学トライアングル岡山」における先進科学部門が企画して平成 21 年 7 月 4 日(土) 16:00 から 17:30 の間、「第1回戦略GP-KTO連携教育研究推進ワークショップ」が岡山大学 自然科学研究科棟 2 階大講義室で開催された。参加者は 35 名であった。

小野文久・戦略GP岡山理科大コーディネーターの司会により、最初に、本ワークショップの企画説明があり、続いて、各連携機関から、各校における現在のFD(ファカルティデベロップメント)の現状について報告を受けた。

まず、佐々木健二・岡山大学FD委員会委員長から岡山大学のFDの特長として、組織的教育改善、学生参画型教育改善、討論型FD研修:桃太郎フォーラム等、FDの一環としての教員活動評価とのリンクなどを含めたFD活動の説明があった。さらに、「学生による授業評価アンケート」の実施状況と結果、それを受けた教員の自己評価と人事評価へのリンクについて説明があった。最後に、「岡山大学版ティーチングチップス集」と「岡山大学版ラーニングチップス集」についてそれらの内容と活用について説明があった。



佐々木・岡山大学FD委員長の報告



豊田・岡山理科大学副学長の報告

続いて、豊田真司・岡山理科大学FD委員会委員長・副学長から「岡山理科大学におけるFDの現状と課題」について、各大学に先駆けて比較的早い時期から学生授業評価アンケートの実施などのFD活動に取り組み、長年にわたるデータの蓄積と推移について、さらに現状と今後の課題について説明があった。さらに、小山悦司・倉敷芸術化学大学・教育研究支援センター所長から、同大学におけるFD活動の報告があり、続いて岡田 正・津山高等専門学校副校長から同校におけるFD活動についての報告があった。



小山・倉敷科芸大学教育センター長の報告



岡田・津山高専副校長の報告

これらの報告を受けた後、学生主体のFD活動の結果について、入学学生の学習状況の変化への対応、FD活動への参加者減、評価疲れなどの問題や、今後の課題について討論が行われた。

続いて、各連携校間の連携教育研究推進状況について、これまでのアンケート調査結果をまとめて中筋房夫・戦略GP岡大コーディネーターから報告をいただいた。連携校の教員間には、教員レベルでの連携研究を中心とした、学部生、大学院生の共同ゼミや共同研究が、かなり行われていることがわかったが、さらに深く調査を進める必要があることが指摘された。

これらの報告を受けて、「さらなる連携教育研究推進のためにどのようにFDを進めて行くか」、および「連携教育研究への支援をどう考えるか」などについて議論が行われた。